

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.56 - 2013年8月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サレジオ会員の皆さん、 サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

8月に入り、皆さんに心からのごあいさつを申し上げます！ 多くの管区にとってバカンスの時期ですが、熱心な使徒的取り組みの時期を過ごす管区もあります。ある宣教師たちにとっては、出身管区を訪問する機会、“夏休み”です。「宣教師は、管区または管区協議会の規定に従って、定期的に帰国することができる。管区長は滞在地の管区長に紹介の手紙を書き、滞在に必要なものを配慮する。帰国する宣教師を受け入れる管区の会員は、つとめて温かく、兄弟のひとりとして歓迎する。」(会則第21条)

休暇の時は、体、心、精神を休ませ、充電する貴重な機会です。同時に、自分の国のサレジオ会やカトリック共同体で宣教促進のために働きかけを行うことのできる貴重な機会でもあります！ しかし、しばしば私たちは、宣教師としての生活を分かち合うよりも、資金集めや活動にエネルギーを費やしてしまいます。

養成支部の訪問やボレッティーノ・サレジアーノのインタビューに応えること、そのほかのサレジオ広報の手段を活かすことはとても大切です。広報担当者や福音宣教促進担当者のおかげで、インタビューは、宣教師としての体験、召命を若者やサレジオ家族と分かち合う機会になります。

神の呼びかけを見だし、旅を歩みはじめるきっかけとなったのは宣教師の話聞いたことだったと、新しい宣教師のほとんどが言います！ この場合、謙遜は徳ではありません！ もちろん、宣教師がスペイン(世界中に300人のサレジオ会宣教師を送り出しています)に帰ると、コロンビア(3人のサレジオ会宣教師を送り出しています)に帰るとでは人々の反応は同じではありません。

たしかに、自分の国に帰ることは休養と充電の時ですが、宣教促進のための充実した時でもあります。宣教師自身の体験談は、ほかに代えられません！

Václav Clement

宣教顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

私たちのオラトリオ-ユースセンターが……

サレジオ会青少年司牧についての書簡で、総長は次のように指摘しています。「私たちの使徒職はまだ十分に宣教的ではありません。つまり、第一次福音宣教あるいは再福音宣教の必要性にあまり注意が払われていません。」オラトリオ-ユースセンターに関して、パスクアーレ・チャーベス神父は、緊急に考察すべきいくつかの側面に注意を向けさせます。その中に次の側面があります：

大多数の若者の直接的なニーズに応えることができるような司牧の方法論が見いだされなければなりません。しかし同時に、ある程度深く養成の道を歩むことに開かれた若者たちのため、要求の高い、挑戦を投げかけるような提案をすることも忘れてはなりません。

オラトリオ-ユースセンターを、しっかりとしたアイデンティティーと養成力をもった本物の教育共同体にすることです。それは、豊かな人間的、福音的価値を備え、サレジオ会員と教育者たちが若者たちの中に意味深い形で共にいて、生きることを分かち合い、若者自身の状況と必要性に応じたさまざまな教育的機会を分かち合うような環境のうちに表現されます。

……もっと宣教するオラトリオ-ユースセンターであるように！

アマゾニアの先住民の人々と 分かち合うのは、 私の信仰!

宣教師としての私の召命は、宣教顧問が修練院を訪問したときに始まりました。宣教顧問は講話で、宣教師の召命について考えてみるようにと私たちに呼びかけました。

ポスト・ノビスの時期、私たちが訪問したベトナム人宣教師の話
を聞く機会もありました。宣教師になるように招く呼びかけは徐々に強く、明確になりました。たくさん祈った後、私は海外へ派遣される宣教師になりたいという望みを表明しました。総長は私の願書を受け、ブラジルのアマゾンで先住民の人々のも
とで働くよう私を派遣しました。



多くの若い人に質問されました。

「ベトナムでもキリストを知らない人はたくさんいるのに、なぜ海外で宣教師になるの?」しかし、私の動機ははっきりしています。私たちは恵まれています。たくさんの宣教師がベトナムに来てくれたからです。彼らの蒔いた神のみことばはすでに根を下ろし、成長しつづけています。私が宣教師になりたいのは、この信仰の賜物をまだキリストを知らない人と分かち合いたいからです。私も恵みとして頂いた信仰の喜びと光、イエス・キリストの光を、彼らもまた得るためです。私はほかでもない、自分が持っている唯一の、最も尊いもの、信仰を、ここの人々に差し出したいのです!

ブラジルに向けて出発する前に、ローマとトリノで行われた新宣教師研修コースに参加するというすばらしい機会を頂きました。コースは、過去の体験を後にし、祈り、学び、宣教師として歩みだす私たちを待ち受けるものについて考えるのを助けてくれました。宣教顧問ヴァツラフ・クレメンテ神父と個人的に話すことができたの

はとてもよかったです。宣教師としての歩みの端緒について私と、この道のりを長く歩んできたクレメンテ神父の対話になりました。

ブラジルで、愛するアマゾンの先住民の人々のために働くよう、神は私を呼んでくださいました。サレジオ会宣教師としての召命を頂いて本当に幸せです。マナウス管区の兄弟会員にはとても温かく迎えられました。私はここに来てすぐに打ち解けました。しかし、ポルトガル語を学ぶのは大きな挑戦でした。ポルトガル語を話すのが怖くて苦労しました。また、文化も私にとって全く新しいものでした。後に、修道会協議会主催の、ブラジルの文化・社会・教会について学ぶ新宣教師のための3か月コースに送られました。

現在私はドン・ボスコ学校でアシスタントとして働き、日々の宣教活動の中で、また若者との関わりの中で予防教育法を実践するように努めています。それが私にとって不可欠なことです。宣教師としての生活はたしかに楽ではありませんが、惜しみなく与える者を神は決して見捨てられないと、私は信仰によって確信しています。

ベトナム出身、ブラジルの宣教師
洗礼者ヨハネ・ディン・ヴィエト・ティエン



サレジオ会の宣教の意向

アフリカ・マダガスカル地域

アフリカ・マダガスカルのサレジオ家族が、ドン・ボスコの予防教育法の豊かさを分かち合うことができますように。アフリカの人々、特に若者のため、正義と平和のパン種として、予防教育法を地元の文化に根づかせることができますように。

シノドス後の使徒的勧告「アフリカの教会」は、和解、正義、平和のために奉仕するよう、明確に私たちに求めました。初期のオラトリオでドン・ボスコが生きた霊的、教育的な体験の宝は、アフリカとマダガスカルで、人々が求めてやまない平和と正義の気運を高め、教育と福音宣教の道を強化する、類ない機会になります。



西アフリカ準管区長ジョルジュ・マリオ・クリサフツリ神父へのインタビュー(英語)
vimeo: <http://vimeo.com/69950099>

